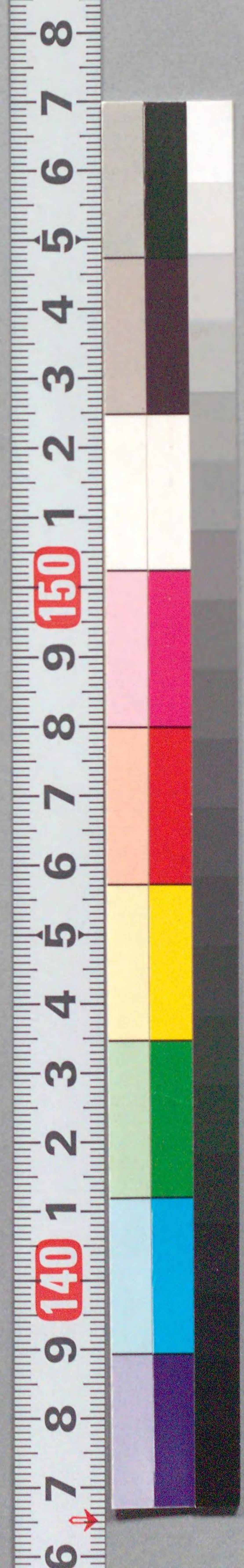




208
15
696

貞標
美談
松の花
五



国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用

美探
松の花
二編
中

208
15
696



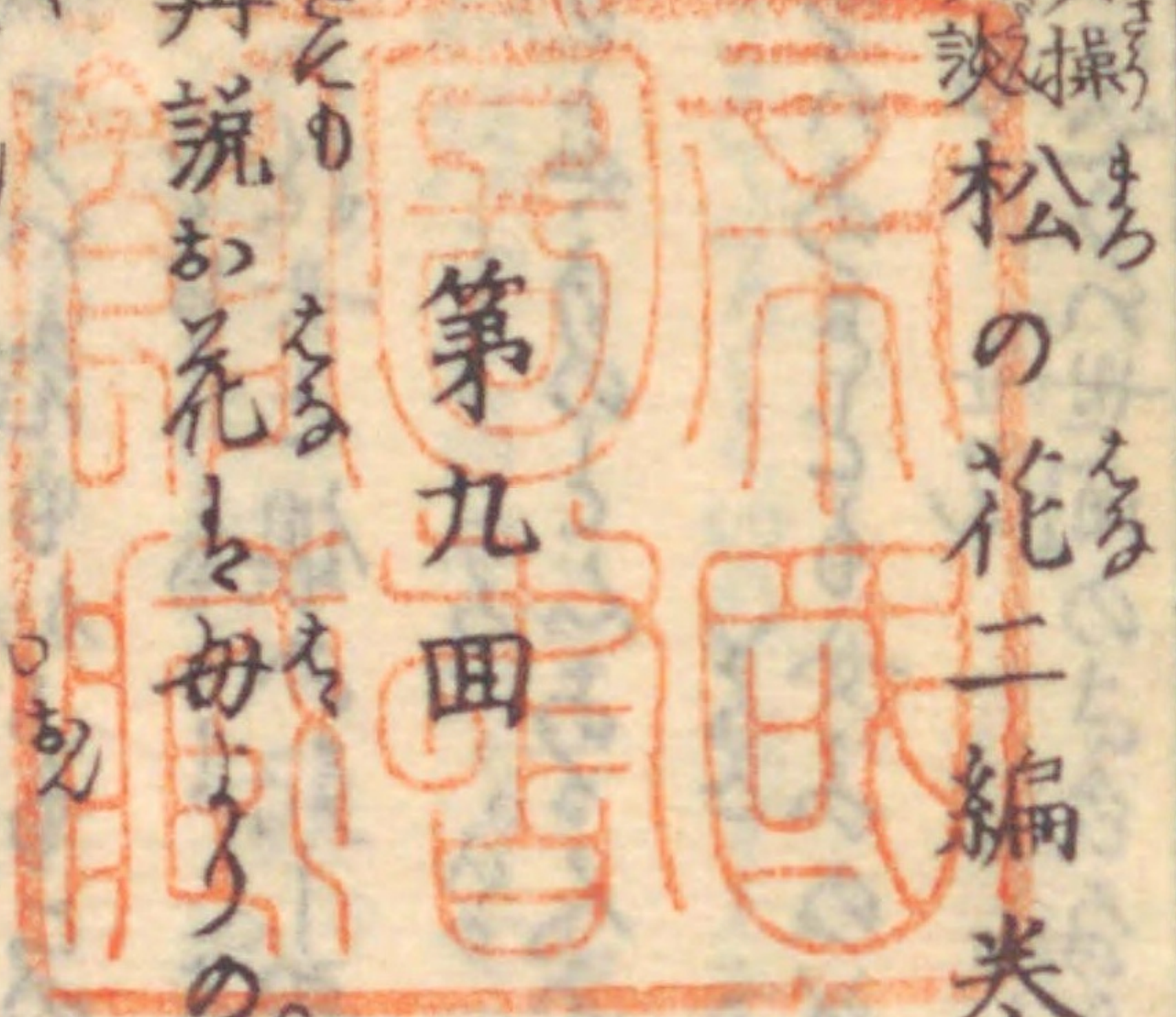
貞攝 松の花二編巻之中

東都

松亭金水編次

第九回

再説お花と母方ののりてをばや人わたりて再夜の縁ありと
く 征まんともあるも思いと書き父の命背くべきあはれども思ふ
せり 千里の世の慣此方の身へこそわづらふ 嘆や落人々を茶次
一の笑ひまとの言此身と今更ふ恥輝く重夜の子と
りてるるべきはうとて是と強ふをめば父の懐小懐ひぬるこの



家と遊出のまいと宣ふあまの勝りむご不け頼せ一の傾け珠せ不せ見みうちえちらまとる。
 恨うらみあるお似にききとも切きりきともぬぬ父ちち子の血ち脈ま千ち代よ松まつとの不
 雅よ見みありたまま入いれせ世よ方かたの人ひとが物と死いいとん勝よ而なの
 儼げん里りの急いそ由よしかかゆゆ。与よの鬼おにが怒と成長な朋とも友とも不な交まりりとの時とき小こ由
 又また入いれせ女にと俱不な死し。母ははもそのお他たの家へ縁付つとる恥はぢぢと死する。
 子こと母のとんある人ひと不な酒さけも飲みて儼げんらまとるが如何いか不な悔くともん
 ちちのあままとも女に子のお父ちちのお獨ひとりりまとると便多く。他た人ひとの産生うまれ
 と送るの世よ間まのさるるとど年とし月つきともく緯ありり。世よ渡わたるる小こ他たの
 又また縁えん付つもきのお由よしあらねど。やや離はなれの状じやうともも渡
 さまとうといひまるる。その夜よ双ふた不な伏ふしる。肉にく由よし破やぶれぬ僅わずかな日
 救すく珠しゆ不なの鬼ハモハ七しち采さい忌ぎの腹由よしかかるとき。又また不な解と解とるの母
 が勝入いの沙法はの恥恥ぢといひの父ちちといひの其ま十じゆ次じ弟ていが不必ふ以いて
 愕おどるる。勝あままの身をとりて流ながる所へ勝入いせとき見えかふせんと
 以よその身を一筋すぢ不な救すくるるが身を電一いちにはようのみるれば。
 ありまるるとも勝あままといひの親おやをもらうの人が慈ままを生のあるるべきや
 といひまるるとも今いまといふのお何れの吹ふひが。といひとて愛を遊出い

家と遊出のまいと宣ふあまの勝りむご不け頼せ一の傾け珠せ不せ見みうちえちらまとる。
 恨うらみあるお似にききとも切きりきともぬぬ父ちち子の血ち脈ま千ち代よ松まつとの不
 雅よ見みありたまま入いれせ世よ方かたの人ひとが物と死いいとん勝よ而なの
 儼げん里りの急いそ由よしかかゆゆ。与よの鬼おにが怒と成長な朋とも友とも不な交まりりとの時とき小こ由
 又また入いれせ女にと俱不な死し。母ははもそのお他たの家へ縁付つとる恥はぢぢと死する。
 子こと母のとんある人ひと不な酒さけも飲みて儼げんらまとるが如何いか不な悔くともん
 ちちのあままとも女に子のお父ちちのお獨ひとりりまとると便多く。他た人ひとの産生うまれ
 と送るの世よ間まのさるるとど年とし月つきともく緯ありり。世よ渡わたるる小こ他たの
 又また縁えん付つもきのお由よしあらねど。やや離はなれの状じやうともも渡
 さまとうといひまるる。その夜よ双ふた不な伏ふしる。肉にく由よし破やぶれぬ僅わずかな日
 救すく珠しゆ不なの鬼ハモハ七しち采さい忌ぎの腹由よしかかるとき。又また不な解と解とるの母
 が勝入いの沙法はの恥恥ぢといひの父ちちといひの其ま十じゆ次じ弟ていが不必ふ以いて
 愕おどるる。勝あままの身をとりて流ながる所へ勝入いせとき見えかふせんと
 以よその身を一筋すぢ不な救すくるるが身を電一いちにはようのみるれば。
 ありまるるとも勝あままといひの親おやをもらうの人が慈ままを生のあるるべきや
 といひまるるとも今いまといふのお何れの吹ふひが。といひとて愛を遊出い







此方の藤原若く金と受取やせうと噂さるる所のお葉
由一もの出だやと理ふれやう御いづくのこ愛中横十のうと空
若ひもてあまを指う一イヤモウこんどぬれいせを喉お腹の言
せうなすおとの慈母がらんを彼をこさやアごころやすめエ
何故とらんお此以中々今四の條子神佛のお話やとてア
且形のお世話あるとアを難へまう日くやア今ぬんをゆめ
ひの遺さね人と懸帳えんを中ごごころやアまふふ不実情
をいぬ人もお根えんをアア望人の向のあきごの守人の

間が秘人との噂さるるありぬる彼懐ふ虫が付とを親馬鹿
動が付はぬお清下と新がす業人がお根とて兄ちやア義理が
懐ねとれ何とれて紐切さう他一まその懐糸と云合くと
亡命をさすすち処のまをせんごう少慈母自己がなありちやア
的長利遠ふあ人とあへり何根ごエ此二とアまある初と云あ
位のありさうありんごよく考へてみるそん等哉らやアね
お根ささう由イまとの人ごらうとりの由ねか子。ア後ひの
物のものと遅くぬるとあり。おまを指う種々の男の中へ日送入

いふ。依り。的。利。左。様。と。い。ふ。一。中。後。を。来。た。の。ご。ア。何。と
言。え。が。あ。り。や。せ。う。多。愛。人。を。渡。し。な。せ。エ。ト。乳。を。ま。り。れ。ん。や
愛。ん。と。い。ふ。べ。し。と。い。ふ。是。を。判。一。コ。サ。依。り。を。根。ふ。た。た。ま。と。せ。び。と。も
宜。ぢ。や。ア。ね。ん。世。間。へ。交。へ。て。外。交。が。愛。の。一。歩。外。交。が。愛。を。そ
催。す。の。の。を。渡。し。な。せ。ん。ナ。左。様。さ。す。を。や。ア。第。一。つ。り。と。も。い。ふ。や
あり。や。せ。ん。一。そ。を。や。ア。ま。ア。ま。ん。ご。う。か。實。の。自。己。の。一。向。知。り。ね。
勿。論。一。類。う。り。て。い。ふ。依。り。の。ま。ご。う。か。あ。の。形。推。も。ま。ん。ご。う。か。い。ま。い。
と。い。ふ。も。あ。り。が。ま。ご。う。後。の。後。来。も。せ。び。此。後。大。き。が。来。る。未。だ

う。ま。と。知。ら。う。話。も。あ。り。殊。小。隠。者。の。か。き。後。人。の。と。子。根。な。る。い
づ。か。實。小。ね。ん。と。化。と。よ。く。尋。ね。て。い。ふ。ま。と。も。他。小。何。根。只。人。が。あ。り。う
う。も。知。と。ね。ん。一。こ。ま。サ。依。七。さん。老。年。小。友。根。只。と。採。せ。る。の。の
ぢ。や。ア。ね。ん。い。や。あ。の。根。知。り。ね。ん。と。何。処。ま。で。日。流。流。あ。り。此。万。の。の
う。根。心。物。を。取。出。て。取。逐。し。て。見。せ。ま。せ。う。ト。ま。ご。出。小。か。う。と。い。ふ。と。あ
一。サ。テ。お。あ。も。多。ら。ね。ん。と。云。ぢ。や。ア。ね。ん。他。の。根。と。隠。し。七。在。て
何。根。す。の。の。子。七。ア。や。ア。不。安。と。知。食。う。隠。す。あ。の。の。ぢ。や
ね。ん。ま。ご。ま。ご。ま。ご。い。ふ。人。で。も。情。ん。を。盡。小。後。で。と。つ。け。ら。る。マ。ア



家敷のその盗まきとて驚くと自己不云とせし不肖なる
由帯刀の身は紙令紙一枚でも盗んどお逃るけまば
あてなきお物の多お條あより切抜さるる子討不す
初るぬ一大子サその伏せ包ま尻以下俵の同きと
イヤまでい様てま。佐七さんの祝也さんう始め
君依の常襲津文字糸とのあまわ入りの母で
う佐七さんが秘書お出送入とまするて何れ
兎と心易くあるる松子落くおちやア長き
おと心易くあるる松子落くおちやア長き

松二ノ中十三

と名つて史形おまを重甲とて今及野の大を
丸で引さつて世依とて考うといふう佐七さん
お松と極めお所が十日おあつて引外し
まは。ころやア佐七さんの曲人お遠へ
知らア切て倅ねるるる版がきて
お松と極めお所が十日おあつて引外し
まは。ころやア佐七さんの曲人お遠へ
知らア切て倅ねるるる版がきて
お松と極めお所が十日おあつて引外し
まは。ころやア佐七さんの曲人お遠へ
知らア切て倅ねるるる版がきて





それ。身不覚えのあつてと様なびとて知れぬと云ふまの。その
男女の押膝んで不情なるに在らるる。ままの知らるる。あつて
妻あり。良人あり。まことと法不罪とする所あり。せつと小何様
ての計ら。老女ども。その女児と隠し。その影の所と執
つて。まこと盗賊の悪名を付する。その女は。盗賊の。その
女児を引攫つ。盗賊の。遠へ往て。解の。其の。蓋
ふかつて。罵る。老女。七の。笑て。女。涙と。合。拳と。搦。今
一言いふ。息の。根止めて。其の。胸の。頻り。小。痛。ま。ど。又

松二ノ中十六

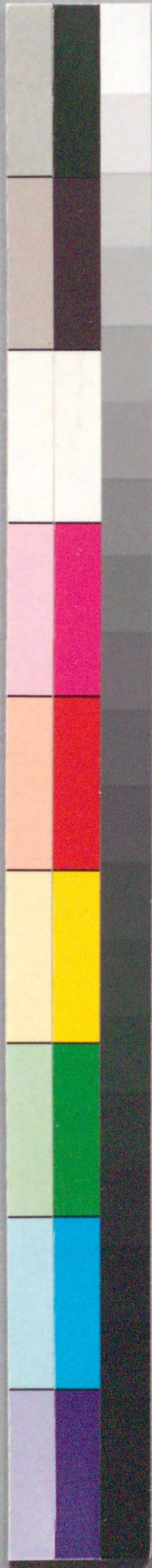
の。ま。あ。小。賊。と。よ。て。云。衆。も。出。さ。び。脱。之。居。ま。が。仙。を。其。の
の。女。児。と。相。對。づ。ば。と。盗。賊。の。勾。引。の。と。云。依。小。娘。と。雜。と
過。云。わ。わ。の。ま。と。み。思。無。智。の。老。と。お。り。ハ。物。獲。の。置。田。と。云
吼。と。泣。流。せ。ば。着。揚。る。と。の。云。う。形。は。と。お。き。と。の。仙。を。其。が。持。て
着。刀。の。手。お。ま。り。あ。の。海。と。云。み。覚。悟。ひ。ら。げ。ト。罷。里。で。控。ま。る
刀。の。寸。板。お。か。ま。づ。う。海。の。老。婆。嘆。と。後。ろ。に。近。出。は。と。遊。と
て。逃。さ。う。と。大。喝。一。聲。驚。脱。へ。と。出。は。是。へ。う。付。く。依。七。と。さ。り

208
15
696

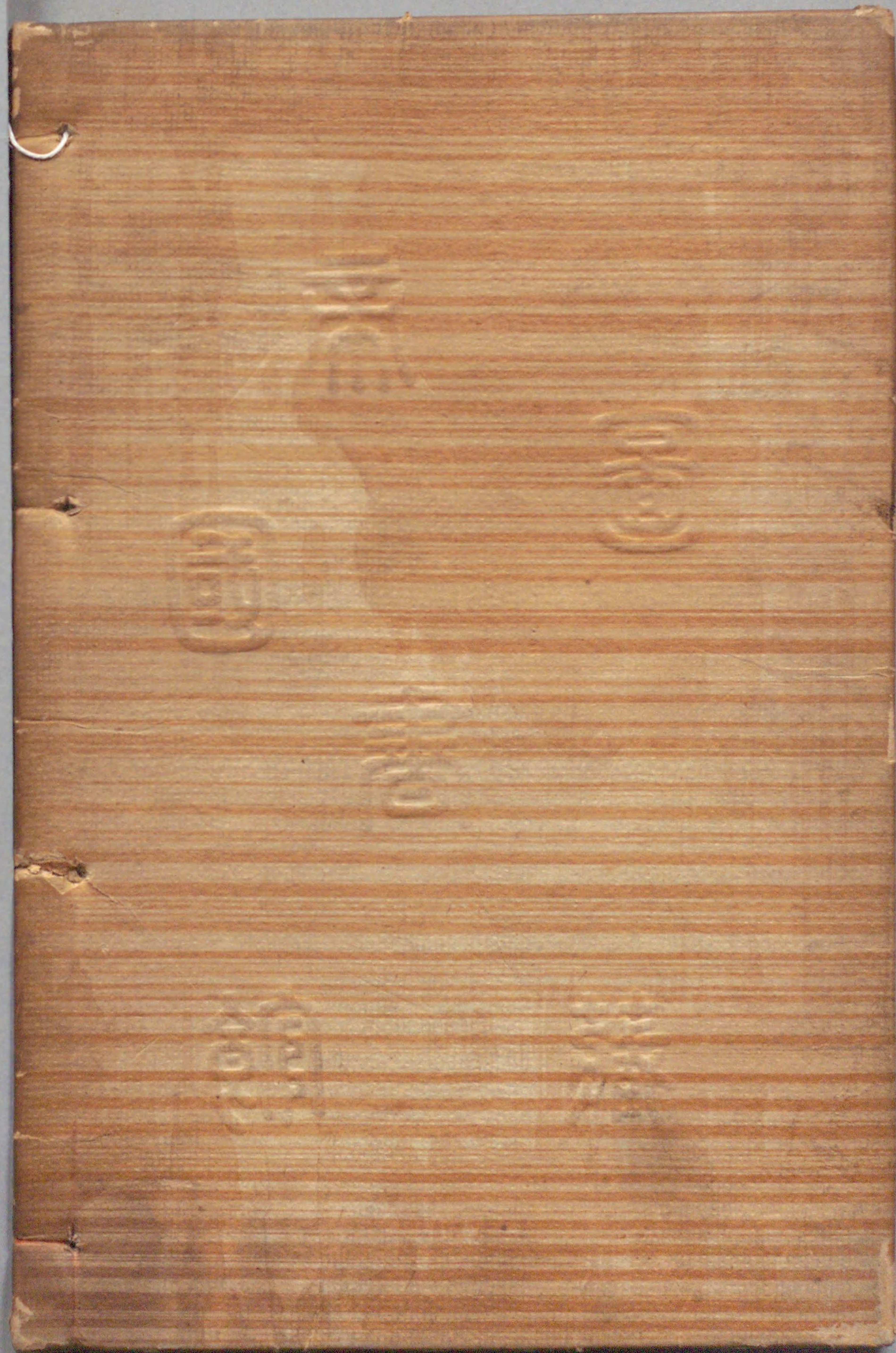
国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用

5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100



国立国会図書館 松の花 5編 208-696



ガラス使用

